2021年11月15日 都市計画演習　中間発表

学生しか勝たん！！

～学生参加で描き出すお年寄りの輪と安心～

2班

班員：青木 日花　石川 夏帆　鎌田 春人　酒井 佑
高橋 慧　樋口 小波　平山 裕紀人　松浦 海斗
指導教員：川島 宏一　TA：石井 樹

演習全体の流れ

- STEP1 テーマの決定⇒⇒ヒアリング⇒⇒問題発見
- STEP2 調査⇒⇒調査の分析⇒⇒改善案の提案　中間発表
- STEP3 実証実験⇒⇒実験の分析⇒⇒最終提案　最終発表

演習全体の流れ

- STEP1 テーマの決定⇒⇒ヒアリング⇒⇒問題発見
- STEP2 調査⇒⇒調査の分析⇒⇒改善案の提案　中間発表
- STEP3 実証実験⇒⇒実験の分析⇒⇒最終提案　最終発表

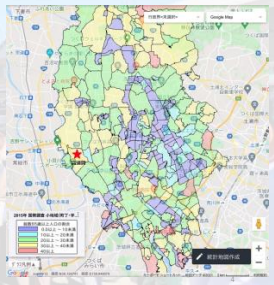
テーマの決定

＜テーマ＞

周辺地域問題

ヒアリング

高齢者問題



演習全体の流れ

- STEP1 テーマの決定⇒⇒ヒアリング⇒⇒問題発見
- STEP2 調査⇒⇒調査の分析⇒⇒改善案の提案　中間発表
- STEP3 実証実験⇒⇒実験の分析⇒⇒最終提案　最終発表

着眼点 ①

買い物難民

買い物難民

ヒアリング①-1　カスミ

＜調査概要＞

➢**日時・場所**：2021年10月25日 カスミつくばセンター

➢**ヒアリング対象**：小谷 良江様（株式会社カスミ 経営企画室 経営企画・広報）
君和田 勉様
（株式会社カスミ ビジネス変革本部 UXデザインマネージャー）

➢**調査項目**：
事業経緯・取り扱う商品・利用者層・事業の実態・今後の展望 etc...

買い物難民

ヒアリング①-2　周辺部住民

＜調査概要＞

➢**日時・場所**：
2021年10月28日 北条地区・栄地区
同 10月31日 上郷地区・高須賀地区

➢**ヒアリング対象**：
主に各地区に居住している地域住民
（10代～70代の男女12名）

01_つくば市周辺市街地位置図 (tsukuba.lg.jp)

買い物難民

ヒアリング①-2　周辺部住民

＜調査概要＞

➢**主な調査項目**：

・**他者との生活**について
→会話・近所の人との交流の頻度

・**個人の生活**について
→外出状況・生活上の困まり事・今の生活の満足度

・**地域**について
→地域の交流の場の調査・地域間格差などのつくば市全体の問題

↑調査風景

買い物難民

結果 ①

➢**買い物**
→各地区に店は少ないものの、
買い物に困ることは**ない**

60代女性（上郷）：
最低限の生活に必要な施設はそろっている。
そんなに**困ってない**。
50代男性（北条）：カスミがあるので**買い物には行ける**。コープを利用する人も多い。

➢**移動スーパーの目的**
→地域住民の身近な**交流の場**
（福祉事業としての移動スーパー）

カスミ（小谷様、君和田様）：
移動スーパーは主な利用者である
高齢者の**憩いの場**となっているため、
多少の遅れは気にならない
のではないかと思われる。

着眼点 ②

「高齢者の**交流**」
のために
学生ができること

高齢者の交流

ヒアリング②-1　市役所

＜調査概要＞

➢**日時**：2021年10月27日

➢**場所**：つくば市役所

➢**ヒアリング対象**：つくば市地域包括支援課 松尾様、金山様

高齢者の交流

ヒアリング②-1　市役所

＜調査概要＞

➢**主な調査項目**：

・**移動スーパー**について

→市に届いている利用者からの声や市が行っている制度

・市が行っている**高齢者向けの政策や行事**

・行政側の視点から見た**意見や今後の展開**

→学生が関与できることはあるのか

13

高齢者の交流

ヒアリング②-2　社会福祉協議会

＜調査概要＞

↑ヒアリング風景

➢**日時**：2021年11月1日

➢**場所**：つくば市社会福祉協議会南支所

➢**ヒアリング対象**：

松尾様、社会福祉協議会地域福祉推進室 大竹様

14

高齢者の交流

ヒアリング②-2　社会福祉協議会

＜調査概要＞

➢**主な調査項目**：

・周辺地域で抱えている**高齢者問題**等について

・**高齢者サロン**についての相談

・**学生**がどのように関わっていけるか

15

高齢者の交流

結果 ②

➢**課題：高齢者の見守り**

・地域**見守り**ネットワーク事業が不十分

・**孤独**気味になる高齢者がいる

➢**高齢者の交流のための支援**

→市役所：移動スーパー時に**公民館を開放**

→市役所・社会福祉協議会：高齢者サロンにおける**交流の促進**や**見守り**

16

着眼点 ③

「高齢者の**見守り**と**交流**」
のために
学生ができること

17

学生ができること

テーマ
周辺地域問題

問題
高齢者間の交流と
高齢者に対する
見守りが足りない

✖ 学生 ＝ 新たな効果

18

演習全体の流れ

STEP1 テーマの決定⇒⇒ヒアリング⇒⇒問題発見

STEP2 調査⇒⇒調査の分析⇒⇒改善案の提案　中間発表

STEP3 実証実験⇒⇒実験の分析⇒⇒最終提案　最終発表

つくば市の抱える問題

高齢者間の**交流**
と
高齢者に対する**見守り**
が
足りない

演習の目的

＜つくば市の抱える問題＞
高齢者間の**交流**と
高齢者に対する**見守り**が足りない
↓
学生ができることを明確に示す

演習全体の流れ

STEP1 テーマの決定⇒⇒ヒアリング⇒⇒問題発見

STEP2 **調査**⇒⇒調査の分析⇒⇒改善案の提案　中間発表

STEP3 実証実験⇒⇒実験の分析⇒⇒最終提案　最終発表

調査の位置づけ

テーマ
周辺地域問題

問題
高齢者間の交流と
高齢者に対する
見守りが足りない

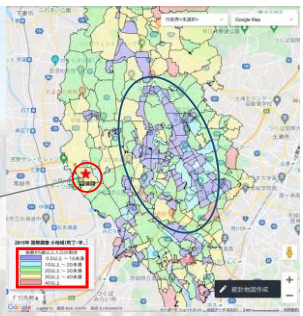
✖ 学生 ＝ 新たな効果

手段（調査）
「健康チェックとお話し会」
※市役所主催

調査地域の現状

➢**周辺地域**：
中心部よりも高齢化率が高い

➢**調査地域**：
つくば市高須賀
→人口の**30～40**%が65歳以上の**高齢者**
→中心部よりも高齢化が進行



つくば市内の地域別65歳以上人口の割合（2015年国勢調査より）

「健康チェックとお話会」

調査風景

＜イベント概要＞

- **日時**：2021年11月11日 午前11時～12時
- **場所**：高須賀地区研修センター
- **主催**：つくば市役所地域包括支援課、つくば市社会福祉協議会

- イベントを開催した**目的**：**交流の促進・高齢者の見守り**
- 今後の**方針**：**地域住民が中心**となって運営していけるよう支援

25

「健康チェックとお話会」

＜調査目的＞

演習の目的

＜つくば市の抱える問題＞
高齢者間の交流と
高齢者に対する見守りが足りない
↓
学生ができることを明確に示す

調査目的

・高齢者が**学生に対して望んでいること**
・イベント「健康チェックとお話会」の**効果**を明らかにする

26

「健康チェックとお話会」
調査概要① アンケート

調査内容

・イベント参加者への**アンケート**を実施

調査形式

・イベント参加者と**お話**をしながら
アンケート項目をうめる

＜アンケートの主な項目＞

・今回のサロンに満足しましたか。
その普段の近所づきあいについて、当てはまるものはどれですか
・何がきっかけで、このサロンを知りましたか。
・今回のように学生が参加するとき、学生に最も求めることはどれですか。

27

「健康チェックとお話会」 調査概要② チラシ

	チラシ1	チラシ2	チラシ3	チラシ4
配布者	学生（都市計画演習2班）			市役所など
配布方法	1枚ずつランダムにポスティング			回覧板など
記載した内容	健康チェック・保健師			
	学生	学生（御用聞き）	お話会（学生には触れず）	学生とお話会
チラシの画像				

演習全体の流れ

STEP1 テーマの決定⇒⇒ヒアリング⇒⇒問題発見

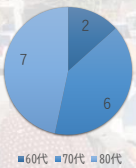
STEP2 調査⇒⇒**調査の分析**⇒⇒改善案の提案　中間発表

STEP3 実証実験⇒⇒実験の分析⇒⇒最終提案　最終発表

29

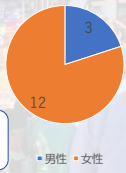
サロン参加者の属性

参加者の年齢



60代：**2**名
70代：**6**名
80代：**7**名

性別

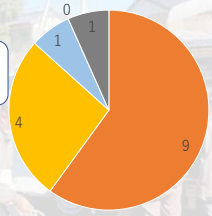


男性：**3**名
女性：**12**名

30

サロン参加者の地域活動への参加状況

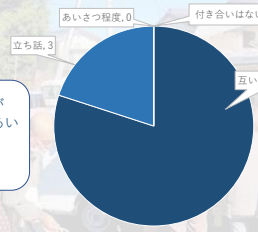
13名の参加者が
地域活動に
積極的・やや積極的



真に**見守りができている**
と言うには、
地域活動に「**消極的**」
である方も呼び込む
必要性。

サロン参加者の普段のご近所づきあい

すべての参加者が
普段のご近所づきあい
「**互いに相談**」
「**立ち話**」



近所づきあいが
薄い方にも
参加を促す必要性

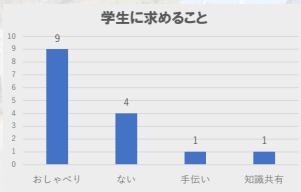
ポスティングの効果

ポスティングによる情報周知	事前に情報周知されていた
1	14

ポスティングする**以前**に、**イベントに関する情報が**
ほとんどの人に回っていた
→ポスティングの効果を測ることができず

人づてが9人
(参加者全体の **6 割強**)

学生の役割



学生に求めること
おしゃべり

学生に対しては
フィジカルなサポートよりも
メンタルのサポートを期待している

「健康チェックとお話会」調査分析のまとめ

演習の目的
高齢者間の**交流**と
高齢者に対する**見守り**が足りない
→学生ができることを明確に示す

調査目的
・高齢者が**学生に対して望んでいること**
・イベント「健康チェックとお話会」の**効果** を明らかにする

調査結果
・高齢者は学生とお話をすることを望んでいる
・普段から積極的に地域活動に参加する人は、参加していた

演習全体の流れ

STEP1 テーマの決定⇒⇒ヒアリング⇒⇒問題発見

STEP2 調査⇒⇒調査の分析⇒⇒改善案の提案　中間発表

STEP3 実証実験⇒⇒実験の分析⇒⇒最終提案　最終発表

今後の展望①
ー調査結果に対する見解ー

演習の目的
高齢者間の**交流**と高齢者に対する**見守り**が足りない
→学生ができることを明確に示す

調査

調査結果
①普段から**積極的**に地域活動に参加する人は、**交流の場に参加**していた
②高齢者は**学生とお話**をすることを望んでいる

考察
①普段から地域活動にあまり参加しない人に対して、学生ができるアプローチは少ない
②学生とお話することで、参加率が上がる可能性がある

37

今後の展望②
ー今後の展望とその後の流れー

演習の目的
高齢者間の**交流**と高齢者に対する**見守り**が足りない
→学生ができることを明確に示す

考察
学生とお話することで、参加率を上げる可能性がある

今後の展望
「学生とお話することで、交流の場への参加率が増える」を立証する

調査

立証成立
学生が話すことで、高齢者サロンの参加率が上がる
→高齢者サロンに参加すると、高齢者の交流と見守りができる

結果
学生が話すことで、高齢者の交流と見守りを促進する

38

今後の展望③
ー今後の展望に対する対象者と調査ー

今後の展望
学生とお話することで、高齢者サロンへの参加率を増やす

対象者
1. 今回のイベントに参加しなかったが、何かをすれば参加する可能性のある人
2. イベントに参加した人
3. 今回のイベントに参加せず、何かをしても参加しない人
4. 筑波大学生

調査
1.学生がきっかけで、交流会の参加率が上がる
→交流会に学生がいるという情報を配布した場合、参加する

2. 学生が話すことで、次の回の参加率が上がる
→学生と話すことで、交流会の満足度が上がる

3 学生側にどのように働きかければ、高齢者サロンに参加するのかを明らかにする

39

今後の展望④
ー具体的な調査①ー

今後の展望
学生とお話することで、高齢者サロンへの参加率を増やす

対象者
高齢者のカテゴリー分け
1. **今回のイベントに参加しなかったが、何かをすれば参加する可能性のある人**
2. イベントに参加した人
3. 今回のイベントに参加せず、、何かをしても参加しない人
4. 筑波大学生

調査
1.学生がきっかけで、交流会の参加率が上がる
→交流会に学生がいるという情報を配布した場合、参加する

2. 学生が話すことで、次の回の参加率が上がる
→学生と話すことで、交流会の満足度が上がる

3 学生側にどのように働きかければ、高齢者サロンに参加するのかを明らかにする

40

今後の展望④
ー具体的な調査①ー

目的：「学生がきっかけで、交流会の参加率が上がる」のかを検証することで、交流会に学生がいるという情報を配布した場合、参加するのかを確かめる

「方法」：
対象者：今回のイベントに**参加しなかった**が、何かをすれば**参加する可能性のある人**

調査対象：次回の高齢者サロンまで
日時・場所：１２月９日（木）11:0:0-12:00 高須賀交流センター

調査内容：①高須賀地区を**２パターン**に分け、それぞれ異なる回覧板を回す
1、交流会に**学生がいる**という情報＆高齢者サロンの情報の**回覧板を回す**
2、高齢者サロン情報のみの回覧板を回す
②当日サロンに参加した人が、
「１の回覧板を見た、２の回覧板を見た」のどれであるか、アンケートで調査する

改善点：
・**回覧板を情報媒体**(プレ調査で、回覧板の方が情報がいき渡りやすいという大竹様の情報から)
・配った人を明確化するため、回覧板のルートを調べる

41

今後の展望④
ー具体的な調査②ー

今後の展望
学生とお話することで、高齢者サロンへの参加率を増やす

対象者
1. 今回のイベントに参加しなかったが、何かをすれば参加する可能性のある人
2. **イベントに参加した人**
3. 今回のイベントに参加せず、、何かをしても参加しない人
4. 筑波大学生

調査
1.学生がきっかけで、交流会の参加率が上がる
→交流会に学生がいるという情報を配布した場合、参加する

2. **学生が話すことで、次の回の参加率が上がる**
→学生と話すことで、交流会の満足度が上がる

3 学生側にどのように働きかければ、高齢者サロンに参加するのかを明らかにする

42

今後の展望④
ーより具体的な調査②ー

目的：「学生と話すことで、交流会の満足度が上がる」のかを検証することで、
学生が話すことで、次の回の参加率が上がるのかを確かめる

方法：
対象者：イベントに参加した人

調査対象：次回の高齢者サロン
日時・場所：１２月９日（木）11:0:0-12:00 高須賀交流センター

調査内容：①参加者に、**学生・市役所の方・参加者**同士の全員とお喋りしてもらう
②参加者に、**誰とお喋りした時に最も満足感を感じたか**聞く
③どの人と話した時の**満足度**が高かったかの結果を出す

調査準備：この調査内容を高齢者サロン担当の大竹様に相談する

今後の展望④
ーより具体的な調査③ー

今後の展望　学生とお話することで、高齢者サロンへの参加率を増やす

対象者
1. 今回のイベントに参加しなかったが、何をすれば参加する可能性のある人今回のイベントに参加した人今回のイベントに参加した人
2. イベントに参加した人
3. 今回のイベントに参加せず、何かをしても参加しない人
4. **筑波大学生**

調査
1.学生がきっかけで、交流会の参加率が上がる
→交流会に学生がいるという情報を配布した場合、参加する
2. 学生が話すことで、次の回の参加率が上がる
→学生と話すことで、交流会の満足度が上がる

3　学生側にどのように働きかければ、高齢者サロンに参加するのかを明らかにする

今後の展望④
ーより具体的な調査③ー

目的：「学生が高齢者サロンに参加したいと思う宣伝方法」について検証することで、
学生側にどのように働きかければ、高齢者サロンに参加するのかを明らかにする

方法：
調査対象：筑波大学生

調査内容：①筑波大学生が高齢者サロンに参加したいと思う**宣伝方法**について、
いくつか候補を検討する
②Googleのフォームを使って、筑波大学生に、いくつかの宣伝方法の中から、
最も行きたいと思う宣伝方法に回答してもらう
③回答を集計して、高齢者サロンに参加したいと思う宣伝方法を明らかにする

今後の展望④
ーまとめー

演習の目的	高齢者間の**交流**と高齢者に対する**見守り**が足りない →学生ができることを明確に示す
考察	学生とお話することで、参加率を上げる可能性がある
今後の展望	学生とお話することで、高齢者サロンへの参加率を増やす
調査	２つの事柄を検証する
立証	学生が話すことで、高齢者サロンの参加率が上がる →高齢者サロンに参加すると、高齢者の交流と見守りができる
結果	学生が話すことで、高齢者の交流と見守りを促進する

今後の展望⑤
ー今後のスケジュールー

DATE	内容
11月中	高齢者サロン担当者と住民の方との打ち合わせ
12月2日	回覧板を回す（**調査①**）学生アンケート(**調査③**)
9日	高齢者サロン（**調査①②**）
10日~19日	調査分析・最終発表・発表資料の作成
20日	**最終発表**
	To be continued…

参考文献

- 「つくば市内での「移動スーパー」エリア拡大！～１０月１２日（月）出発式開催～」 株式会社カスミ
https://www.kasumi.co.jp/news/news986.pdf　2021年11月13日閲覧
- 「地域見守りネットワーク事業」 つくば市社会福祉協議会
http://www.tsukuba-swc.or.jp/page/page000025.html　2021年11月14日閲覧
- 世代間交流を基盤とした健康増進サークルの効果ー地域在住高齢者と学生がもたらす相乗効果 矢澤浩成　戸田香
0_47S1_I-89_2.jpg (827×1170) (jst.go.jp)　2021年11月14日閲覧
- 地域高齢者と短期大学生の交流サロン運営に関する一考察 中川 千代
h30kiyou-07.pdf (takada-jc.ac.jp)　2021年11月14日閲覧

謝辞

ご協力ありがとうございました

所属	役職	お名前
株式会社カスミ	経営企画室 経営企画・広報	小谷 良江 様
	ビジネス変革本部 UXデザインマネージャー	君和田 勉様
つくば市役所	地域包括支援課	松尾 様
		金山 様
	社会福祉協議会地域福祉推進室	大竹 様